

平成28年度愛知県がんセンター公開講座(第6回)のご案内

「低侵襲外科治療について」

= 平成29年2月25日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「泌尿器科領域におけるロボット手術を中心とした低侵襲手術の現状」

今回は、ロボット手術が標準治療になっている前立腺がんを中心にお話しします。

根治が期待できる状態で前立腺がんを発見するためには、早期診断が必要になります。その鍵になるのが、血液検査である PSA（前立腺特異抗原）と、前立腺生検です。当院では、確実にがん組織をとらえる前立腺生検の工夫を行っています。

また、前立腺がんと診断された後は、治療選択が重要になります。2015年7月に最新型施術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」を導入したことにより、従来からの放射線治療（内照射、IMRT による外照射）を含め、保険診療のすべての選択肢を提供できる体制になっています。

特に、「ダヴィンチ Xi」を使用した、ロボット支援前立腺切除の利点は、従来の小切開手術と比較して、出血が少なく（輸血率0%）、創部も小さく、術後カテーテル留置期間、入院期間も短く、低浸潤を実現しています。また完全切除できる比率も向上しています。

今回の講演会では、診断の実際、ロボット手術の実際を御説明させていただきます。

泌尿器科部 部長 曾我 倫久人

「婦人科における低侵襲治療について」

婦人科がんの手術は、原則、子宮と卵巣・卵管摘出、後腹膜（骨盤・傍大動脈）リンパ節郭清術といった拡大手術が行われます。特に、**進行がん**では、がんの進展した隣接臓器の膀胱や腸管の一部を合併切除することもあります。しかしながら、近年、**早期がん**には、縮小手術の取り組みや、腹腔鏡を用いた低侵襲手術が行われています。

本講座では、全く異なる子宮体がんと子宮頸がんの病気についての説明を行い、**最新の手術療法**について～子宮体がんの腹腔鏡下手術、子宮頸がんのロボット支援下手術、早期子宮頸がんの縮小手術、センチネルリンパ節の取り組みなど～ご紹介します。

婦人科部 部長 水野 美香

「消化器外科（食道外科）における低侵襲治療について」

胸部食道がん手術は食道切除および頸部、胸部、腹部にまたがる3領域のリンパ節郭清を必要とするため、消化器がん手術の中でも手術侵襲が非常に大きい手術の一つです。その手術侵襲軽減のために、これまで様々な周術期管理や術式の工夫がなされてきました。近年低侵襲治療として、鏡視下手術が消化器がん手術にも普及しており、食道がん手術においても鏡視下手術が導入され、拡大視効果によるより精緻な手術が可能となっています。本講座では食道がん手術の低侵襲治療としての鏡視下手術の現状についてお話をさせていただきます。

消化器外科部 医長 安部 哲也